富士河口湖高校同窓会だより

# 河高北陵館通信 Vol.33

山梨県立富士河口湖高等学校
同窓会事務局

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663－1 TEL 0555-73-2511 FAX 0555-73-2513 http://kawako-dosokai.net/

## 同窓会とは

同窓会長
真田　喜久雄（三期生）

河高は1977年の開校から39年が経ち、今春は37期生が卒業、40期生が入学します。卒業生総数は1万1千人余りとなり、地元のみならず政治や産業、学術研究など社会の様々な分野で卒業生が活躍しています。一方、日本社会が少子高齢化の進展、人口減少を迎える中、残念ながら河高も生徒数の減少、クラス数の削減がありました。しかし、母校である河高が将来にわたって発展し、同窓生が活躍することを切に願っています。

さて、同窓会ですが、活動のメインは毎年1回、7月に行う年次総会です。卒業後20年目の学年が当番幹事となり、総会や記念行事の企画・運営を担当しています。これまで、アルピニスト野口健氏による自然環境に関する講演などその時々の時代に即した講演会や富士河口湖町への記念品の寄贈、また、マイクロバスなど母校の施設改善や活動支援を行ってきました。昨年は戦後70年を迎える中、戦場カメラマンの渡部陽一氏から講演をいただきました。今年の幹事である18期生の皆さんには、当時の仲間たちと旧交を温める中で、ぜひ思い出に残る総会となること、そして多くの同窓生が参加されることを期待しています。

現役生においては、部活動での全国レベルの活躍、学業でも国のSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイトの指定校となるなど、校訓である「仰峰不屈」の精神のもと文武両道を実践している姿は、同窓生にとって大きな励みになっています。今後も現役生の活躍を応援して参ります。

来年（2017年）には、河高は創立40周年の大きな節目を迎えます。着実に歴史を刻んでいる中、同窓会の目的である、同窓会員相互の親睦を深め、母校の事業を賛助し、地域文化の発展に貢献していきたいと思います。今後とも関係者の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

## 若き日々

校長
小石川　正文

こんにちは。私も昨年度に着任し、通算十四年目の勤務を継続しております。同窓会の皆様からは、平素より母校の教育振興のため、格別のご支援とご協力を賜ります。厚く御礼を申し上げます。

さて、本校では、在校生たちも、「文武一体」を志向し、「爽やかで　明るく活力のある」学校生活を送っています。県高校総体での活躍ぶり、関東大会出場数の多さ、インターハイでの快挙等は特筆され、ロンドン五輪・カヌー競技出場の28期生に続くべく、三年生からはカヌースプリントジュニア日本代表選手が誕生しています。この他にも、県高校芸術文化祭の各部門においては多くの入賞を果たすなど、本校の創立以来の教育実践、「仰峰不屈」の精神の具現化として、面目躍如たるものがあります。

昨年度からは、「NIE推進事業研究」の指定を受け、生徒たちの思考力・判断力・表現力の育成を徹底させ、メディアリテラシーの観点にも留意した教育活動に取り組んでいます。さらに今年度からの五年間、県内では二校目、郡内地域では唯一の、「スーパーグローバルハイスクールアソシエイト（SGHアソシエイト）」に、全国の55校の一つとして文部科学省より選定され、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成にも努めています。

後輩の在校生たちも、勉学に部活動にと真剣に向き合い、日々励んでいます。現一年生は39期生、来年が40周年の大きな節目、さらなる躍進へと、教育活動に専心していきたいと思います。同窓会員の皆様には引き続きましての温かいご支援とご協力の程を宜しくお願い申し上げます。また、「若き日々」を過ごされた母校にもお出かけくださいますようご案内を申し上げます。

## 近況報告

21期　流石　裕之

郷里・山梨県を離れ、岩手県の花巻東高校（私立）に、社会科の教員として赴任して12年目を迎えました。河高硬式野球部出身の私は、大学でも硬式野球部に籍を置き、その関係から、花巻東高校で硬式野球部の指導に携わることになり、現在、硬式野球部部長をしております。

この12年で本校硬式野球部は甲子園8回の出場を果たし、その中で準優勝1回、2度のベスト4という結果を残してきました。また、選手たちにも恵まれ、菊池雄星（埼玉西武ライオンズ）・大谷翔平（北海道日本ハムファイターズ）などプロ野球で活躍する選手や大学や社会人野球で活躍する多くの選手を輩出してきました。

最近は菊池や大谷の活躍があり、どうしても華やかなイメージがあるのですが、花巻東は決してそのようなチームではありません。岩手県内の子どもたちで、日々の努力によって、甲子園という大舞台で結果を残してきたチームです。多くの生徒とふれあい、甲子園での勝利を目指す中で、様々な貴重な経験をさせていただきました。

その中でも、最も忘れられない経験は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災です。津波の被害が大きかった岩手県沿岸部は、少年野球などが盛んな地域であり、硬式野球部に籍を置く生徒も多く、その実家や親族が被害に遭いました。

昨年の夏を戦った選手の一人に、この津波で、女手一つで育ててくれていた母親を亡くした生徒がいました。彼は、幼き少年時代に母親と交わした「甲子園に連れて行ってほしい」という約束を果たすために、本校の門をたたき、部員150名ともなる硬式野球部の中で、レギュラーの座をつかみ、甲子園出場を果たしました。甲子園でも、多くの声援をうけ、グランドの中で精いっぱいのプレーをし、活躍してくれました。現在は大学進学も決まり、新たな目標に向かい努力しています。これからも生徒たちの目標達成・夢の後押しができたらと思っています。

私は高校卒業以来、毎年、新年のスタートを河高野球部時代の仲間たちと過ごしています。また、花巻東高校硬式野球部も3月に山梨遠征でシーズンのスタートを切ります。私にとって仲間や母校の存在が心の支えであり、原動力となっています。

昨年・一昨年と河高硬式野球部が、東北遠征で花巻東を訪れてくれました。いつか母校と甲子園の舞台で試合をする日がくることを信じて、これからも東北の地で頑張ります。

## 「同窓会総会に向けて」

第37回山梨県立富士河口湖高等学校 同総会 副実行委員
18期　梶原　裕一郎

「何期生？」富士河口湖高校の卒業生との会話で、必ず出てくるフレーズではないでしょうか。18期生である私が、わが母校である富士河口湖高校を卒業して、20年が経とうとしています。

私は、第37回山梨県立富士河口湖高校同窓会総会実行委員の梶原裕一郎と言います。この話を頂くまで、私自身、正直なところ河高の同窓会のことは考えたこともありませんでした。そこで、「河高」という一つの空間を共にしたつながりについて考えてみました。

私は今、富士河口湖町内に住んでおります。そのため、河高生の姿を見かける機会も比較的多いと言えます。近隣では唯一の詰襟の男子の学生服姿は、さわやかな富士北麓の風のごとく、高校生として清々しくさえ感じられます。その生徒たちが、自転車で通学している様子を見るにつけ、自分の高校時代がフラッシュバックされます。時間は違っても、同じ校舎で過ごし、同じように自分の進路を模索して学んでいる姿に励まされている感じがするのは、私だけではないと思います。

一方で、同じ時間を共有したつながりの大きさも感じます。SNSやメールなど、いつでも連絡をとれると思っていた同期の仲間たちとも、今回のことを通して改めてつながりを確認することができ、とても幸せに思います。第37回の同窓会総会では、記念事業などを通し、同窓生のみならず近隣地域の皆さんにも、この『つながり』を広げていければと思います。

最後になりましたが、第37回山梨県立富士河口湖高等学校同窓会総会を開催するにあたり、同窓会役員をはじめとする同窓会の方々、18期の仲間たち、在校生、先生方、関係各位の皆様には多大な御助力を賜り、本当にありがとうございます。同窓会総会の成功に向けて、これからも実行委員を中心に活動していきます。今後も変わらぬ御支援をよろしくお願いいたします。

河高同窓会
ホームページを
是非ご覧ください。

今年の同窓会総会・懇親会は
**2016年7月2日（土）**
**開催決定!!**

講演会　於 フジエボックホール（鳴沢道の駅）
青山学院大学陸上競技部
長距離ブロック　原　晋　監督 ※予定